

第1回支部代開催

日刊 動労千葉

80.12.18

No. 610

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六・公衆)三三二二七



燃料延長策動阻止・不当処分粉碎の闘いをもって 八一・三闘争へ！

◆◆◆◆ 布施組織部長への免職処分年内強行発令・「ジェット延長」提案策動が強まる中、動労千葉は、第一回支部代表者会議を開催した。会議は、この二つの攻撃が年内強行されるならば、全支部・全組合員の怒りの決起をもって闘いに突入することを決定した。

ジェット延長提案と不当処分強行発令の動向！

第四回定期大会以降、情勢は「八一・三」へ向けて刻々と煮詰ってきている。

第九三国会で国鉄再建法案をはじめとする諸反動法案が可決され、八三年改憲・軍事大国化への反動攻撃は一段とエスカレートしてきている。

国労中央は、スト損賠二百億の重圧にあえぎ、闘う方針が見い出せぬまま、その打開策を「八一・三」ジェット延長」非協力闘争をうち打っている。

動労「本部」反動分子に至っては、政治反動の中で自らがセクト的に生き残ることのみを唯一の「路線」に、当局との癒着をとおし反労働者の策動を行方一方、裏切り分子土屋をテコに「動労千葉の八一・三闘争を破壊するための「ジェット闘争」なるものを提起し、様々な敵対策動を強めてきている。

しかし、このような闘争敵対・破壊策動に抗し、動労千葉の路線の正義性はますます鮮明になってきている。

社会党第四五回定期全国大会において千葉・茨城両県本提起の「ジェット延長阻止・二期工事反対決議」が反対同盟との連帯の明文化を含め万場一致確認され、十二月八日総評幹事会において明確な支援を決定するなど、大きな前進をつくり出してきている。

このような中で国鉄当局は、総裁が運輸大臣に呼ばれたことをもって「延長要請」をうけたという立場にたち年内提案という動向にある。一方、五月三十一日通告以来われわれの闘いの中で発令出来ない状況にあった布施組織部長への不当処分は、本社および秋山反動局長のメンツ、「本部」反動分子の泣訴、そして何よりも八一・三へ向けられた動労千葉への組織破壊攻撃として年内処分発令強行は必至の情勢にある。

加えて、当面する年末年始輸送要員操配にからめたジェット要員確保策動が行われてきている。

支部代表者会議の中では以上の情勢を分析、把握する中で、具体的な闘う方向性、戦術大綱について次の通り決定した。

△具体的取り組み▽

- 一、ジェット延長提案および不当処分発令が強行された場合 直ちに両者を結合した闘いに突入する。
- (1) 減産、非協力闘争(具体的戦術は別途)
- (2) 局前総決起集会の開催
- 二、「八一・三」を展望した要員操配は認めない交渉体制を強化する。
- 三、布施組織部長に対する解雇発令があった場合、確認方針にもとづき法廷闘争を取組む。
- 四、「八一・三」にむけた密集せる反動に抗し、銚子支部結成に向けた体制の強化をはかる。

「本部」反動分子のジェット破壊・解体策動を許さず怒りの反撃の闘いに立ち上がる！

本年四・一五を導火線とした「本部」反動分子・当局一体となった千葉破壊を許さず、四・一七、四・一五の計画的襲撃を忘れることなく、八一・三決戦に向け闘いの炎と怒りをたぎらせ総力決起をもって闘いに勝利していこう。

